

科目名	災害と地域1			ナンバリング	REC241	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員					

授業の概要	災害は多種多様である。災害の種類や地域社会自体の諸々の特質により、災害への対応力や、復元力も異なることを、まず理解する。そこで、本講義では災害の種類や、現代社会の災害に対する脆弱性を概観した後に、過去に発生した大規模災害を事例として、様々な災害に対する地域社会の対応と、復興のプロセスを具体的事例を参考に考究する。						
到達目標	1.自然災害のメカニズムと人的災害の原因について説明できる。 2.災害に対する現代の文明社会の脆弱性について説明できる。 3.災害ごとの復興課題とプロセスの違いについて説明できる。 4.学修したことを災害発生時に活かすことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	できる限り、被災した地域を訪れて、被災した当時の状況や、復興のプロセスを理解できる機会を持つことを推奨したい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
自然災害の発生メカニズムと、人為的災害の原因、現代社会の災害に対する脆弱性、これらの理解と回復の可能性について説明できる。	自然災害の発生メカニズムと、人為的災害の原因、現代社会の災害に対する脆弱性、これらの複合的な災害状況を立体的に解明し、災害ごとの復興課題とプロセスの違いについて説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		40%
授業態度・授業への参加	○		○	○			30%

課題、評価のフィードバック	1.リアクション・ペーパーでの質問や意見については、次回の講義においてコメントを行う。 2.授業に関する質問や疑問、相談は随時応じている。 3.レポート、試験の質問および成績については、希望がある場合は随時説明をする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	自然災害の種類と発生メカニズム① ー地震・津波の発生メカニズムー	自然災害の種類を概観したうえで、地震・津波の発生メカニズムを説明する。	
	第2回	自然災害の種類と発生メカニズム② ー風水害・火山災害の発生メカニズムー	風水害と火山災害の発生メカニズムを説明する。	
	第3回	人的災害の種類と特質① ー火災の原因と傾向ー	人為的災害の種類と特質について外観したうえで、人為的災害の代表格である火災の原因と傾向について説明する。	
	第4回	人的災害の種類と特質② ー原子力災害の特性ー	チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の概要を説明したうえで、他の災害と大きく異なる原子力災害の特質について考究する。	
	第5回	災害と現代社会の脆弱性① ー文明と災害ー	災害被害を拡大させ地域の崩壊まで導く社会的・経済的・文化的構造である「脆弱性」概念と文明の発達との関連について概説する。	
	第6回	災害と現代社会の脆弱性② ーグローバル化と災害ー	経済のグローバル化は被災のグローバル化を伴い、国内的には多文化共生の流れも脆弱性の危険を持ち合わせていることも概説する。	
	第7回	災害と現代社会の脆弱性③ ー少子高齢化と災害ー	少子高齢社会における災害対策の課題について概観する。	
	第8回	被災地におけるコミュニティの復興	インフラの復旧、都市の復興と産業の復興、生活の復興という被災地コミュニティの復興の構造を概説する。	
	第9回	震災と震災復興① 大都市	阪神淡路大震災、とくに神戸市の被害状況と復興過程を概説する。	
	第10回	震災と震災復興② 中山間地	中越地震の被害状況費と復興過程を概説する。	
	第11回	津波被害からの復興	3.11の津波状況と復興の経過を説明し、その問題点を考究する。	
	第12回	風水害からの復興	象徴的な災害であるこ国内の伊勢湾台風と米国のハリケーン・カトリーナの被害と復興過程について講義する。	
	第13回	火山災害の復興	雲仙普賢岳と三宅島噴火災害の被害と復興過程を説明する。	
	第14回	大火からの復興	その後の都市復興のモデルとなった酒田大火の復興過程を説明する。	
	第15回	災害が映し出す地域社会の特質	被災によってその社会の特質、とりわけ全弱性と復元・回復力が浮き彫りになることを事例を示して説明する。	
	試験	試験はしない。		
授業の進め方		基本的には講義しその内容の質疑応答とする。2～3回のレポート課題を課す。		
授業外学習の指示		事前に配布された資料をよく読みこんで、わからない用語や内容について自身で調べておくこと。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	特定の教科書は使用せず、適時、プリントを配布する。
参考書	浦野正樹ほか編『復興コミュニティ論入門』弘文堂、 2007.ISBN978-4-335-50102-9
参考URLなど	総務省消防庁:http://www.fdma.go.jp/ e-カレッジ「災害の基礎知識」
その他	

ルーブリック「災害と地域1」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	災害と地域1、テーマ設定	様々な先行研究をふまえ、自分なりの課題が明確化されたテーマ設定になっている。	自分の興味に基づいた災害と地域1の課題設定ができている。	課題設定が絞り込まれていない状態で、概説マが不明確である。
2	災害と地域1.の計画策定	テーマ設定に基づいた内容が、多角的に検討されており、オリジナリティも高い。	テーマ設定に基づいたプロジェクトの計画がなされている。	テーマ設定に基づいた具体的なプロジェクトの計画策定できていない。
3	災害と地域1.の理解	内容に基づいた理解が、ほぼ達成できている。	内容に基づいた理解が、7割以上説明できている。	地域と社会1の内容に基づいた理解が3割程度(未満)。
4	地域と社会の振り返り	実際の災害の問題点を把握し、検討課題を明確化できている。	実際の災害の検討課題を把握できている。	実際の災害に関する問題点をほとんど把握できていない。
7				